

## 平成30年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立白井中学校
<p>1 授業を通して</p> <p>全教科で生徒が「達成感」を得られるような授業づくりを追究し、一人一人の学習意欲を高める</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●分かる授業<ul style="list-style-type: none"><li>・板書のユニバーサルデザイン化</li><li>・全教科での「めあて」の統一</li><li>・ICT 機器や図書室の活用</li></ul></li><li>●できる授業<ul style="list-style-type: none"><li>・数学における少人数授業</li><li>・テスト前の5教科の補習の実施</li></ul></li><li>●合う授業<ul style="list-style-type: none"><li>・「話し合う」「比べ合う」「助け合う」ため少人数グループでの学習を積極的に取り入れる。</li><li>・発表用ホワイトボードを各学級に用意</li></ul></li></ul> <p>2 家庭学習を通して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習の手引きの作成 (5教科の有効な家庭学習の方法を検討し、冊子にまとめたもの)</li><li>・毎日の家庭学習の確認</li></ul> <p>3 その他</p> <p>1. 「学力向上委員会」の設置</p> <p>3つの部に5教科の先生を分けて学力向上に向けて取り組みを検討</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●調査統計広報部<ul style="list-style-type: none"><li>・現状分析(学力テスト、アンケート等)</li><li>・各支援部の進行状況の確認</li></ul></li><li>●学習環境支援部<ul style="list-style-type: none"><li>・学習意欲を高める掲示物の作成</li><li>・白井中タイムの取り組み検討</li><li>・家庭学習の手引きの検討、作成</li></ul></li><li>●授業力向上支援部<ul style="list-style-type: none"><li>・共通取り組み事項の検討</li><li>・研修会の実施、運営</li><li>・少人数、習熟度別指導の検討</li></ul></li></ul> <p>2. 白井中タイム(ST)について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・帰りの会前の10分間で実施</li><li>・各種検定(英検、漢検、数検など)の合格を目指したドリル学習</li><li>・学年に合わせ目安となる級のプリントを準備 (ただし、自分の実力に合わせたもの、自分が受検するものの学習でもよい)</li></ul>	

## 平成30年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立大山口中学校
<p>1 授業を通して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国語科では、授業内で漢字練習をし、定期的に漢字テストを実施することで、基礎的な語彙力がつくよう指導する。その上で、論理的に豊かに表現する力を育むために、考えたことを基にして、相手にわかりやすく伝える活動を定期的に設定し、話し合いや発表の形態を工夫する。</li><li>・社会科では、「つかむ（学習課題）」→「予想する」→「調べる」→「深める」→「まとめる」の問題解決的な学習ができるようにするために、様々な視点から予想できるための学習課題を作る工夫をする。</li><li>・数学科では、少人数授業やT・T、グループやペアによる話し合い活動の授業を実施して、分かる授業の実践を目指す。また、小テストや計算問題の復習などをする時間を取り入れることで、学習内容を深められるようにする。</li><li>・理科では、思考力を育て学習理解を深めるための導入の工夫として、映像・画像資料の準備・共有化を図る。また、学年の教科担当で統一できるための授業プリントを作成する。</li><li>・英語科では、コミュニケーション能力の基礎が身につくように暗唱を行う。また、ペア活動を通して互いを認め合わせることで、自己表現する力が身につくよう指導する。</li></ul> <p>2 家庭学習を通して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・副教材（ワーク）を使用して学習させ、その都度進度を知らせる。また、定期的なワークの提出を促す。数学科では、問題に対する質問にいつでも応じる。</li><li>・国語科では、定期的に範囲を指定した漢字テストを実施する。</li><li>・社会科では、時事問題に多くふれさせることで社会的事象への関心が高まるよう指導する。また、学級や廊下に時事関係の掲示をして、時事にふれる機会を増やす。</li><li>・理科では、問題プリントを配布し、学習の機会を設定する。</li><li>・英語科では、全学年で採用していたドリルを復習に有効活用させる。また、予習、新出語句調べ、本文写しなどを家庭学習に課す。</li><li>・今年度初め、各家庭向けに生徒の学習レベルに応じた「家庭学習の仕方」を配布して、学習方法を自分で選択できるようにした。</li></ul> <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・通常学級における特別支援教育の観点を取り入れた学級経営や授業づくりを行っていく。</li><li>・学習部会及び各教科部会において、職員の授業力アップのための研修を行っていく。</li><li>・相互授業参観を実施し、教科指導の方法について研修を深めていく。</li></ul>	

## 平成30年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立南山中学校
<p>1 授業を通して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○全教科で、学習課題を青で囲み、まとめを赤で囲み、本時のめあて等を明確にする。</li><li>○必要に応じて、授業中に小グループ活動を取り入れ、意見を交換しながら考えを深められる時間を確保する。</li><li>○1・3年の数学科における少人数指導の充実<ul style="list-style-type: none"><li>・数学の苦手な生徒を中心によりきめ細やかな指導を徹底し、生徒の苦手意識を減らすために1クラスを2つのグループに分け、2名の教員で少人数指導を実施する。</li><li>・单元テストや定期テストの結果を参考に、年に数回コースの入れ替えを行う。</li></ul></li><li>○読書活動の推進（千葉県学校教育指導の指針の「確かな学力」に結びつく）<ul style="list-style-type: none"><li>・読書活動推進補助教員と学習図書委員会が中心となり、図書室の環境整備をすすめる、図書室の利用率向上の呼びかけなどに努める。</li><li>・読書活動推進補助教員と連携して、授業の中にブックトークを取り入れ、図書室の本の紹介や図書の利用の促進を図る。国語科でのビブリオバトルで、思考力・表現力・言語活動の向上を図る。</li><li>・定期的に読書活動推進補助教員が、各学級に“読み聞かせ”を行い、本に親しみを持つきっかけをつくる。</li></ul></li></ul> <p>2 家庭学習を通して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学習図書委員会の活動の一つとして、家庭学習の取り組みを行っている。また、学級担任も積極的に関わり、家庭学習の習慣が身につくよう指導する。</li><li>○家庭学習の内容向上のため、各教科でサンプルを作成し、生徒に示すなど、内容についても指導する。</li><li>○定期テストのテスト範囲が発表になったとき、学習計画表を立てる意義などを話し、学習計画を立てさせ、継続的に点検をし、内容についても指導する。</li></ul>	

## 平成30年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立七次台中学校
<p>1 授業を通して</p> <p>今年度の研究主題・指導重点として、4人を基本としたT字班での学習（課題設定や発問の工夫）を全教科・領域で取り組んでいる。1時間の授業内で1回はこの学習形態を用いて話し合い活動を行うようにしている。</p> <p>2 家庭学習を通して</p> <p>○「自学ノート」</p> <p>A4版の家庭学習帳を購入し、1日1ページ学習を取り入れている。担任に提出しチェックをすることで、家庭学習の習慣づけを促している。各教科の課題プリントなどを有効活用している。</p> <p>○学習プリントの作成</p> <p>5教科の自主学習ができるプリントを作成し、各学年の学習コーナーに設置している。単元終了後の復習や定期テストに向けての学習、既習事項の復習が繰り返しできるようにし、学習意欲の喚起を行っている。</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 基礎学力の定着に向けて</p> <p>○下位の生徒への個別支援</p> <p>数学の授業での少人数指導やティームティーチングによる指導をはじめ、長期休業中の学習会の実施、放課後の個別指導など、一斉授業では理解を深められない生徒に、実態に合わせた取組を行っている。</p> <p>○朝の学習時間の活用</p> <p>国・数・英の3教科の小テストを週替わりで実施し、漢字や英単語の読み書き、計算力の定着を目指している。</p> <p>(2) 定期テストに向けて</p> <p>○定期テスト前の補習</p> <p>朝、放課後、休み時間を活用し補習を実施し、生徒の苦手な分野をフォローしている。今年度は夏季休業中にテスト対策学習会を実施する。</p> <p>○委員会活動の取組</p> <p>学習委員会が「学習プリント」を作成し、家庭学習に使えるプリントを廊下の学習コーナーに置いて活用できるようにしている。</p>	

## 平成30年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立桜台中学校
<p>1 授業を通して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○少人数グループでの学習（全教科） 言語活動の充実を目指す観点から、生徒同士の対話を重視し、全教科で、少人数グループの話し合いを意図的に取り入れていくことで、生徒が主体的な立場で思考し、理解を深めていくことを目指す。</li><li>○ICT 機器の活用 ICT 機器を活用した資料の提示により、生徒の興味・関心を喚起し意欲の向上につなげたり、互いの意見を比較・共有する場を演出したり、資料から得た情報を基に、確かな理解へ導く支援をすることを旨す。</li><li>○授業評価の工夫 よりよい授業作りのため、誰が見ても分かりやすい授業を目指し、教職員同士による授業参観、生徒や保護者による授業評価を行い、授業改善に役立てる。</li></ul> <p>2 家庭学習を通して</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○家庭学習テストの実施 目的①家庭学習習慣の確立への一助      ②各教科の基礎、基本の習得 実施内容 ①課題配付（国・英・社・理）の4教科。5月連休明けからの日程に合わせて、年間の課題を提示する。） ※1，2年生：各教科10回ずつ，3年生：各教科7回ずつ ②テスト実施(毎週月曜日の朝，テスト5分，採点5分。) ③不合格者の補習（当日の放課後20分間与えられた課題に取り組む。）</li><li>○家庭学習プリントの配付（各教科，各授業で）<ul style="list-style-type: none"><li>・教科ごとに工夫し，家庭学習として取り組めるプリント類の配付。</li><li>・定期テスト前に，学習委員が作成した予想問題を配付。</li></ul></li></ul>	